

## 第5章 図書館のかしこい利用法

大学生活と図書館が、とても密接な関わりを持っていること、そして大学の図書館だけではなく、公共図書館なども含めたさまざまな図書館のネットワークを介して、私たちは世界中の図書館と繋がっていることを、1～4章で見してきました。

図書館をかしく使いこなせれば、大学生活をより豊かで実り多いものにできます。この章では、大学図書館において一般的に提供している各種のサービスについて紹介し、大学に入学してから卒業して社会人になるまでの各ライフステージで、必要な時に必要なサービスを活用できるよう、具体的に案内していきます。

なお、個々のサービスやルールは大学によって異なりますので、自分の図書館の「利用案内」やホームページなどを参照してください。

### 1 Welcome! 新入生

図書館をかしく使いこなす一番のコツは、「図書館をよく知ること」です。学生さんを対象にしたアンケートによく見られる「図書館への要望」は、実は既の実現していることも多いのです。

「大学の図書館って、ちょっと入りにくい。」

「とりあえず、どんなことができるのか、広く浅く知っておきたい。」

……こういう時にお勧めなのが、新入生ガイダンスです。初めて大学図書館を使う人（編入生や留学生も含む）を対象にして、多くの大学で図書館ツアーなどが実施されています。

大学によっては、お宝（「貴重書」など）を見せてくれたり、学部生のあいだは入れないような場所を案内してもらったりすることもあるので、探検気分に参加してみてもいいでしょうか。

図書館が企画するイベントのほか、学部導入教育（大学での勉強方法を身に付けてもらうために用意されたカリキュラム）など、授業の中で実施されるケースも増えています。

それでは、図書館ツアーの内容をちょっと覗いてみましょう。

#### ○ 図書館への入り方

図書館に入ったり、本を借りたりするためには、「図書館利用券（カード）」が必要です。

カードは、学生証と共通の場合もあり、新入生全員に配布されることが多いようです。

駅の改札口のように入館チェックをカードで自動的に行う図書館や、24時間入館できる図書館もあります。カードを忘れると、本が借りられないことなどもあるので、要注意！

#### ○ 本の借り方・返し方

一度に借りられる本の冊数や期間、返し方をチェックしましょう。

他の人が借りている本の予約や、貸出期間の延長ができる場合もあります。

借り方は、窓口で貸出手続きをするほか、無人の自動貸出機が使える場合もあります。

貸出期限日に遅れると、本が借りられないなど、ペナルティが科されることがあるので、

要注意！ また、無断持ち出し防止装置が設置されている図書館もあります。

○ **資料の置き場所を知る**

自分の図書館の「利用案内」やホームページなどで、図書館の見取り図をチェックしてみましょう。本は例えば「歴史」や「機械工学」など内容・主題によって分類され、その番号順に並んでいるので、自分の図書館の分類方法を知っておくと便利です。最も一般的なのは、NDC（日本十進分類法）です（p.107参照）。大学図書館で利用できる資料の種類や使い方は、「第Ⅱ部 資料を探す」を参照してください。

- この辺りからいわゆる図書館用語が出てきて、始めのうちはとっつきにくいかもしれません。どんどん説明役の図書館員に質問してください。

○ **質問する・相談する**

多くの図書館では「レファレンス・サービス」や「参考調査」というサービスを提供しています。みなさんの調べ物の手伝いをする図書館員がいますので、わからないことや困ったことがあったら、窓口の図書館員に気軽に相談してください。

○ **資料をコピーする**

図書館に置いてあるコピー機は、著作権法という法律の第31条（p.219参照）に基づいて、図書館の資料を複写する目的で設置されています。

- 複写できるのは、本は概ね半分以下、雑誌は論文単位。調査研究目的に限られます。

○ **施設・設備を利用する**

映画や語学学習ビデオなどが見られるAV室、グループで利用できる共同学習室、レポートを書いたり情報検索をするためのパソコンなどを提供している図書館もあります。

■ **ホーム・ライブラリーという存在** ■  
ばしょ・じょうほう・ひと

サッカーや野球のチームにホーム・グラウンドがあるように、大学にはあなたにとっていわば「ホーム・ライブラリー」とも呼べる自分の図書館があります。

プレイヤーはあなたです。講義の予習復習・試験勉強、レポートの調べ物や情報検索、授業の合間の息抜きなど…図書館は、あなたに快適な学習環境（居場所と資料・情報）を提供します。そして、図書館員は、あなたのサポーターです。

**2 レポートの基本（文献探索・入門編）**

大学生活に慣れるころ……前期も後半になると、授業でレポートが課されたり、ディスカッションをして意見をまとめ発表する、といった課題が出されます。図書館には、大学のシラバス（講義概要）で指定されている本のほかにも、多くの学術書や参考図書が備えられており、

学習・研究に役立つことができます。

あるテーマについてレポートを書くためには、客観的事実を把握したり、参考になる先行文献を探して読んでおくことが必須です。これらを抜きにして自分の考えだけを述べることは、単なる主張であってレポートとはいえません。また、インターネットや本などから得た情報を編集しただけではオリジナルとはいえません。つまり、レポートを書くということは、これまでに培われた知識体系の上に、自分の考察を積み上げていく知的作業です。共通教育（教養課程）などで幅広い分野の学問を学ぶこの時期に、基本的な文献探索のノウハウを身に付けておきましょう。

「先行文献って、どうやって探すんですか？」

「知りたい内容の本がなかなか見つかりません」

……こういう時に、頼りになるのが、図書館員です。前出の「レファレンス・サービス」や「参考調査」を担当する窓口で、相談をしてみてください。

文献の探し方について、リーフレットや、ホームページ上の案内を出している図書館もあります。また、文献探索の方法を説明する講習会が、多くの図書館で実施されています。

### ■ 情報リテラシーの必要性 ■ ネット時代のよみ・かき・そろばん

情報リテラシー “**Information Literacy**” とは、直訳すると情報の読み書き能力。

- 必要に応じて情報を探索・入手し、
  - 探し出した情報を読み、理解し、批判的に評価し、
  - 自分の考察を踏まえて編集・加工・発信し、課題解決に生かす、
- ネットワーク社会を生き抜くために必須の、基本的能力とされています。

近年、大学図書館では「情報リテラシー教育支援」の一環として、授業とタイアップしたガイダンスや情報検索講習会などを積極的に実施しています。

#### ○ 図書館にある資料をキーワードで探す

まず一番に使い方をマスターしたいのが、OPAC (Online Public Access Catalog; 「オパック」あるいは「オーパック」) です。各大学の図書館が持っている蔵書（本や雑誌）を書名や雑誌名、本の著者名などのキーワードで検索できるオンラインの目録データベースです。OPACの全国版 “**Webcat**” は、自分の図書館を含め、全国の大学図書館の蔵書が調べられるほか、本の目次や要約も見られるのでとても便利です。詳しくは、「第Ⅱ部 資料を探す 第3章 図書を探す (p.106)」を参照してください。

#### ○ ネットワークパソコンを利用する

最近では、多くの図書館でネットワークに繋がった自習用のパソコンが設置されていたり、自分のパソコンを持ち込んで利用できるようになっています。

Yahoo! や Google など、インターネットの検索エンジンを使えば、ネットワーク上にある膨大な情報をキーワードで検索できますし、統計などは印刷されたものより速く入手できるなど、非常に便利です。詳しくは、「第Ⅲ部 情報を探す 第3章 インターネットで探す (p.180~)」を参照してください。

- 大学でインターネットや電子メールを使うためには、ネットワークのアカウント（利用資格：IDとパスワードで管理される）が必要です。各大学の規則に従い、ネチケット（ネットワーク上のエチケット）をきちんと守って使いましょう。

#### ○ 図書館のホームページを活用する

図書館ホームページは、学術情報のナビゲーターの役割を果たします。最新のお知らせ、新着本、OPAC や検索エンジンなどへのリンク、文献の探し方のコツなど、役立つ情報がたくさん盛り込まれているので要チェックです。携帯電話用サイトを用意している図書館もあります。

#### ■ インターネットがあれば本はいらない、のウソ ■ いわゆるインターネット情報と学術情報のちがいを

先行文献を調べる際、検索エンジンでキーワードを入れて検索すれば、一発でそのものずばりの情報がヒットすることもあります。一方で、信頼性の高い情報になかなかどり着けないこともあります。

素早く正確に、求める情報を探すには、1つは検索のコツを身に付けること。もう1つは、探したい情報の特性（どんな情報がどこを探せば入手できるか）を知ることです。有益な情報がネット上で無料で読めるケースも増えましたが、まだまだ紙に印刷された本や雑誌論文などでしか入手できない情報も多いのが実情です。

探す手段とその結果得られる情報の関係を、しっかり見極めてください。

### 3 そろそろ、「卒研」（文献探索・応用編）

大学生活も後半に入ると、ゼミや専門の講座に配属され、卒業研究の準備に入ります。自分の研究テーマが決まったら、そのテーマでこれまで「どんな」文献が書かれたかを網羅的に調べ、読むべき文献が「どこに」あるかを探して、入手する必要があります。多くの図書館で、卒業研究を控えた人向けの講習会が実施されているので、ぜひ参加してみてください。

学生生活の集大成ともいべき卒業論文をキッチリ書き上げるために、第Ⅱ部以降の詳細な説明を参照して、しっかりと準備しましょう。

#### ○ 文献探しに役立つデータベースを知る

「どんな」文献があるか調査するには、「文献データベース」を使います。代表的な「文献データベース」は、日本で発行された雑誌論文をキーワードで検索する「雑誌記事索引」です。その他にも、海外の文献データベースや主題別の専門データベースなど、さまざまなデータベースがあります。詳しくは、「第Ⅲ部 情報を探す 第2章 データベー

スを利用する (p.166～)」を参照してください。

読みたい文献が決まったら、その図書館の所蔵図書館や、論文が掲載されている雑誌が「どこに」あるかについて、「所蔵データベース」を調査します。代表的な「所蔵データベース」は、前出の OPAC です。自分の大学の OPAC で見つからない場合は、全国の大学図書館の所蔵情報データベースである **Webcat** や国立国会図書館、公共図書館、海外の図書館などの所蔵データベースを検索することができます。

○ **電子ジャーナルを利用する**

近年、学術雑誌は、紙に印刷された冊子体だけでなく、オンラインで全文が読める「電子ジャーナル」が海外を中心に増加してきました。国内でも学会誌や大学紀要を中心に電子化が進んでいます。「文献データベース」の検索結果から、直接「電子ジャーナル」の本文へリンクするサービスも増え、非常に便利になってきました。

○ **本や論文を取り寄せる**

必要な文献が、冊子でも電子ジャーナルでも入手できない場合は、自分の所属する図書館を通じて、他の図書館が所蔵する資料のコピーを取り寄せたり (文献複写)、本を取り寄せること (現物貸借) ができます。詳しくは、「第Ⅳ部 資料・情報の収集と整理 第1章 資料・情報の集め方 (p.199～)」を参照してください。

○ **購入リクエスト**

学習・研究に必要な本が自分の図書館に無い場合は、購入リクエストができる図書館もあります。利用できるようになるまでに時間がかかることが多いので、お早めに。

○ **他の図書館を利用する**

他の大学の図書館に行って文献を見たり探したりしたい場合は、予め先方の大学のホームページなどで学外者の利用規程をチェックしましょう。紹介状が必要な場合は、自分の図書館の窓口で発行してもらうことができます。

■ **大学図書館の今後** ■  
ハイブリッド・ライブラリー

電子ジャーナルに代表される、ネット上で流通する学術情報は、今後益々増加することが見込まれています。一方で、紙に印刷された本や雑誌も当面なくなることはありません。これからの大学図書館は、

- アナログ情報 (印刷情報) とデジタル情報 (電子情報) の両方をカバーし、
- シームレスに提供するしくみ (学術ポータル=情報の玄関口) を備え、
- 文献を静かに読む場所とネットが自由に使える場所を提供できる、「ハイブリッド・ライブラリー」が主流になると言われています。

#### **4 卒業したあとも、バックアップ！**

大学図書館は、これまで見てきたように「学習・教育支援」、「研究支援」をおこなう大学の必須の機関です。大学卒業後、大学院へ進学し、さらに研究生活を続ける場合は、大学図書館との付き合いはますます深くなっていくでしょう。

一方で、近年大学は「地域社会への貢献」が強く求められており、一般市民や卒業生に図書館を公開する大学が増えてきました。卒業して社会人になってからも、生涯学習の場として、専門的な学術情報を得る場として、大学図書館をぜひ活用してください。